

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 志 燈

2007年9月
No.128



大谷大学同窓会

「花ひらき仏を見たてまつる」

名畑 崇先生にインタビュー



本学において、三十七年間にわたり教鞭をおとりいただきました名畑崇先生に、博綜館にお越しいただき、お話を伺いました。

—先生が、歴史に関心をお持ちになったきっかけをお聞かせ下さい。

私が大谷大学に入学したのは、昭和二十七年（一九五二）のことです。それまでは京都の洛北高校の生徒だったのですが、その時、高倉会館の日曜講演で藤島達朗先生のお話を聞き、そこに集まった人々と共に奈良の法隆寺を訪れるという機会を得ま

した。そこで私はカルチャーショックを受けたんですね。当時は、戦後まもなくの頃であり、まだ混沌とした雰囲気が残っていた時代でした。京都も米軍がまだ駐留していたこともあり、古都ではあるけれども窮屈な感じがしていました。そんな中、法隆寺の静けさに唐突に出会い、悠久なる歴史に触れることができたのでしょね。その時の体験が、私の関心を歴史に向けさせるきっかけとなりました。

そして、大学に入学後は日本仏教史学を専門とするようになりました。当時、日本仏教史学には藤島達朗先生や北西弘先生がおられ、国史学には高校の日本史の教科書を一人で執筆した三品彰英先生や、柏原祐泉先生、堅田修先生などがおられました。私は藤島先生のゼミに入るとともに、三品先生のゼミにもゲストとして参加させてもらっていました。

—先生が学生の頃の大谷大学の雰囲気はどうでしたか。

当時は、今のような大学の序列というものはまだできていませんでした。そして大谷大学はいわゆる旧制大学の伝統を持っている、学問の伝統ある大学として先生も学生も誇りを持っていたように思います。また、大谷大学には、京都大学から宗教学、哲学、史学などの先生方が惜しまずに出講されて、スタッフが贅沢だと言われていたほどです。

それと真宗学では、曾我量深先生、金子大栄先生が、仏教学では山口益先生が、また宗教学では鈴木大拙先生が、国史学では三品彰英先生など、錚々たる先生方が出講され、講演会があつて、これから新しい学問が盛んになってゆくというような機運に満ちていました。日本仏教史学の分野でも、明るい雰囲気、これから新しい仏教史学を作っていくんだというような自負を先生方が持っていました。

—先生のご研究についてお聞かせ下さい。

若い時は研究テーマが見つかりにくいもので苦労しましたね。研究ということになると、業績を問われますから。先生方からは、歴史学は現場に行つて現物に当たりなさいとよく言われました。なので私が大学院を終えた頃は、ちょうど親鸞聖人七〇〇回御遠

忌が近づいていたこともあり、先生に付いて関東の親鸞の旧跡はじめ真宗寺院を訪れて史料調査をよく行いました。そして、自分が新しく見つけた真宗初期教団の史料をもとに論文を書きはじめていました。その頃、歴史学は調査を主として新しい史料の発掘に注目されました。

しかしある時、国文学の多屋頼俊先生から「新しい史料を求めるのは邪道です。正面から学問の課題を見据えてやりなさい」というアドバイスを受けて、私の研究の方向性が変わりました。それからは文献をもとに仏教の思想史、親鸞の思想史に取り組むようになりました。平安浄土教をテーマとしてからは、仏教史の本流を見失わないように時代をさかのぼって奈良朝の仏教に取りかかりました。奈良時代の仏教は、あまり密教が論じられていなかったのですが、東大寺の不空罽索観音や天平写経の中にある密教系の経典に注目して、奈良朝仏教を論じてみました。

そして博士論文では『元亨釋書』という日本仏教の歴史書を取り上げました。私は学生の時、史料講読の授業でこの書を学んだのですが、あまりに難解であったので、あれは一体何だったのだろうかという思いもあつてテキストとして選んだのです。また、もちろんこの書に真向かいに

なることによつて、中世の仏教史を幅広く見渡してみたいという思いもあつたのですね。

このように振り返りますと、研究の転換点は多屋先生のアドバイスにあつたのかも知れないですね。

また、今は親鸞の思想史の大系に取り組んでみたいと思つています。

— 教育面で気を遣つておられたことはありますか。

学生を教えることは本当に難しい。教えながら学び、学びながら教えると言いますね。本当に学生が求めているものと、自分がそれに答えているものとはあつて、学生の求めてくれる方が寄つていくと、今度は自分の学問が高まつていくということがあります。また、教える側の方向と感性に学生が感じてくれて、それに乗つてきてくれるということが望ましいと思ひます。しかし、研究分野がすっかり分かれていた時は授業はしやすかつたのですが、だんだん学生数が増えてきて、教育体制が膨らんできましたし、学問の底も広がりました。特に三〇〇人を超えるような大講義の授業では、歴史学を教えるのは難しかつたですね。

ゼミは大学院と学部でゼミを持ちましたが、ユニークな学生さんが多かつたですね。仏像彫刻をしていた

り、美術史に強い関心を持つていた。卒業後、文化財の修理や保護の仕事に携わつたり、学芸員として活躍されているゼミ生もいます。

ゼミで良かったのは、学生たちがいろんな研究テーマを持つてきたことです。学生の意見を聞き、時には喧嘩などして合わせていくと、自分の日本仏教史も広がっていくこともありましたが、ゼミを持つということからは教員としてチャンスというか、非常に大事な場所なんでしょうね。

— 先生は、大谷大学の歴史を紹介するお仕事もなさつていましたが、大谷大学に寄せる思いを最後にお聞かせ下さい。

大谷大学が、東京の巣鴨から現在の地に移つてきた頃の京都の小山郷は、田園地帯だつたのですね。ほとんど見渡す限り畑や田んぼだつたんですよ。東京の巣鴨も都心から外れた田舎だつたのでしようが、そういう田園風景の中にある大学の姿を描いてみたいという思いがありました。

今では大谷大学の周囲は都市になつていますが、私が勉強させてもらった頃は、まだそれほど過密に建物がありませんでしたし、のどかさがありました。好きな本を読み、好きな授業に出て、好きなように空間を

過ごして、自由に学んでいました。先生も学生も、新しい学問が開けてくるといふ夢があり、ロマンを持つていたような気がします。おおらかで高ぶつた雰囲気が大学の中になりました。

また、今から思うと、キャンパスには彼岸花がたくさん咲いて花園みたいでしたね。今、当時のような田園風景の大学を求めても仕方のないことかも知れませんが、花がいっぱい咲くようなキャンパスであつて欲しいと思ひます。そうですね、色々な花が咲く学園であつて欲しいですね。花咲くと言うことは、実もなるといふことですから。

感謝

入学時、学園紛争がピークに達し、立看・集会・団交など騒然とした日々が続いていました。そのような時代に名畑ゼミ二期生としてお世話になりました。ゼミの初日であつたが、文献資料の列挙したプリントが配られ、歴史を学ぶ心得として、文献にあたる重要性を説かれました。

名畑 崇先生へのコメント



ふじもと せいいち
1974年3月卒業
文学部史学科日本仏教史学専攻

財団法人国宝修理所長 藤本青一

た。講読資料の僧尼令・高僧伝などに、今も大切に保管してあります。現在文化財修理に携わつておりますが、講義を受けた扶桑略記、日本靈異記などに登場する仏像の修理に出会うと、先生が熱く講義されていたお姿が思い出されます。上向きがげんに天空を見据える先生の癖が思い出されます。今年同窓会において、久しぶりに先生のお姿を見出し、少しも変わらぬ熱い語りといったすらつぽさ、教え子一人一人を見守つて下さつて暖かさを感しました。今後ともお元気で活躍されることを願つております。

- 〔略歴〕
- 一九三三 岐阜県に生まれる
 - 一九五六 大谷大学文学部卒業
 - 一九六一 大谷大学大学院博士課程修了
 - 同 大谷大学助手
 - 一九六九 大谷大学専任講師
 - 一九七二 大谷大学助教授
 - 一九七九 大谷大学教授
 - 一九九二 博士(文学)
 - 一九九九 大谷大学退職
 - 現在 大谷大学名誉教授
- 〔著書〕
- 『本願寺の歴史』
 - 『歴史と信仰』
 - 『破邪顕正鈔序説』
 - 『尊号真像銘文敬信記』
 - 〔共著〕
 - 『伝灯の聖者』
 - 『日本浄土教史の研究』
 - 『日本の社会と宗教』
 - 『戒律思想の研究』
 - 『聖徳太子と飛鳥仏教』
 - 『日本名僧論集・親鸞』
 - 『中世仏教と真宗』
 - 『浄土の聖者・空也』
 - 〔論文〕
 - 『元亨釋書』の研究



本部報告



二〇〇七年度同窓会総会開催（報告）

去る五月十九日（木）午後一時三〇分より、本学博綜館第一会議室において、本年度総会が開催されました。議長に上越支部長直江智成氏を選出。次の各議案について活発な審議をいただき、それぞれ承認を得ました。

一、二〇〇六年度事業報告及び収支決算報告（下記「収支決算書」参照）

一、役員選出について

▼任期満了に伴う会長・副会長・理事



長・常務理事・理事及び監事の改選を

会則第十条・第十一条により行い、次のとおり決定しました。なお、全ての役員は、会則第十三条により任期二年となります。また、今回の役員改選により本部役員をお務めくださり、同窓会発展に多大なるご尽力を賜りました若槻俊秀理事長（大谷大学名誉教授）が退任されました。

そして、新たに北原了義副会長・石橋義秀理事長・成瀬賢也理事・佐賀枝夏文常務理事・藤嶽明信常務理事がそれぞれ役員に就任されました。

会長	藤島 建樹
副会長	寺林 惇・北原 了義
理事長	石橋 義秀
常務理事	等岳 兼昭・二階堂行邦
理事	武井 弥弘
	石川 正生・井関 浄
	加藤 隆昭・沙加戸 明
	柴田 達也・竹園 関
	中村 高澄・本田 昭英

常務理事（学内）
吉田 法純・成瀬 賢也

草野 顕之・藤坂 初裕
佐賀枝夏文・一楽 真
藤嶽 明信・小谷信千代
織田 顕祐
稲垣 俊一・朽木 明暁

監事
一、同窓会活動企画推進委員会に関する件
▼総会では、企画部会の等岳兼昭部長、一楽真常務理事（学内担当）から第一部会活動の報告がなされた後、「第十二回ホームカミングデー開催要項」等が提案され、承認されました。第二部会の織田顕祐常務理

事（学内担当）から『NPO法人 尋源舎 活動計画について』（主・事業（公益事業））では、**■**「仏教公開セミナー」の共催、**■**「尋源仏教塾」の開催、**■**「尋源舎寄付講座」の提供等が報告されました。また、**■**（従・事業（収益事業））として、**■**「グッズ」の開発・販売、**■**「SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」の開発・運営や、**■**「各種事業・行事の仲介や企画」の斡旋・請負についても推進していくことが報告され、了承されました。

一、二〇〇七年度事業計画及び収支予算（左記「収支予算書」参照）

2007年度 大谷大学同窓会本部収支予算書

【収入の部】		(単位:円)
科目	予算額	
1.前年度繰越金	7,380,814	
2.会費	31,590,000	
会費(1)	2,700,000	
会費(2)	28,890,000	
3.入会金	4,815,000	
4.出版物等売上金	100,000	
5.雑収入	1,480,550	
合計	45,366,364	
会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費 会費(2):2007年度卒業者の終身会費		
【支出の部】		(単位:円)
科目	予算額	
1.事業費	16,005,000	
本部事業費	3,925,000	
支部事業助成費	5,580,000	
同期会・OB会等開催助成費	1,000,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	5,000,000	
2.刊行費	5,139,000	
無盡燈刊行費	4,570,000	
印刷製本費	569,000	
3.事務費	6,155,000	
本部事務局費	100,000	
活動費	480,000	
通信費	5,575,000	
4.旅費	8,763,000	
5.会議費	1,770,000	
6.委託費	2,460,000	
7.雑費	520,000	
8.同窓会基金への繰入支出	0	
9.出版事業積立金への繰入支出	0	
10.同窓会活性化準備金	2,500,000	
11.予備費	1,000,000	
12.次年度繰越金	1,054,364	
合計	45,366,364	

2006年度 大谷大学同窓会本部収支決算書

【収入の部】		(単位:円)
科目	決算額	
1.前年度繰越金	9,084,719	
2.会費	35,325,000	
会費(1)	2,475,000	
会費(2)	32,850,000	
3.入会金	5,475,000	
4.出版物等売上金	53,400	
5.雑収入	386,440	
合計	50,324,559	
会費(1):1990年度以前卒業者の終身会費・通常会費 会費(2):2006年度卒業者の終身会費		
【支出の部】		(単位:円)
科目	決算額	
1.事業費	15,011,499	
本部事業費	3,673,318	
支部事業助成費	5,335,260	
同期会・OB会等開催助成費	720,000	
学生会助成費	500,000	
新入会員歓迎費	4,782,921	
2.刊行費	5,168,991	
無盡燈刊行費	4,288,209	
印刷製本費	880,782	
3.事務費	5,361,508	
本部事務局費	53,118	
活動費	300,000	
通信費	5,008,390	
4.旅費	8,208,000	
5.会議費	1,634,825	
6.委託費	2,087,207	
7.雑費	533,546	
8.同窓会基金への繰入支出	1,612,823	
9.出版事業積立金への繰入支出	2,819	
10.同窓会活性化準備金	2,917,927	
11.予備費	404,600	
12.次年度繰越金	7,380,814	
合計	50,324,559	

韓国支部を設立（報告）

二〇〇七年六月六日（水）、韓国釜山のロッテホテルにおいて、大谷大学韓国同窓会の設立記念式典が執り行われました。記念式典には、大谷大学より木村宣彰学長、藤島建樹同窓会会長、大桑斉名誉教授、喜多恵美子講師、八木孝枝教育研究支援課長、森重紀子、笹島きく代両教育研究支援課員及び校友センター事務部長平野紹寿の八名が、一方、現地の韓国帰国留学生、並びに在学時に韓国に留学をされた日本人の同窓生など十四名、合わせて二十二名の出席のもと、木村学長・藤島同窓会会長から韓国同窓会支部設立の意義と、支部に寄せる今後の大きな期待が祝辞の挨拶で述べられました。その後、



韓国同窓会設立記念式

藤島会長から金大植氏（韓国東西大 学校教授）に、大谷大学韓国同窓会会長の就任委嘱状が手交されました。本学韓国同窓会会長に委嘱された金大植氏は、就任の挨拶で、かつて本学に留学していた当時の懐かしい思い出を振り返りながら、このたびの韓国での同窓会開催を大変喜ばれ、今後の韓国同窓会の一層の発展に努めることを表明されました。

記念式典後は、釜山市内の日本料理店に席を移して懇親会が催されました。懇親会では、留学当時の恩師大桑斉名誉教授との再会に、なつかしさと喜び溢れる中で、思い出話に花が咲きました。また、それぞれ友人同士の再会にも話が尽きない様子で、暫し時間の過ぎるのも忘れて盛会のうちに終了いたしました。



懇談会

第十二回 同窓会ホームカミングデー案内

同窓会では、例年学園祭「紫明祭」開催期間中の土曜日に「ホームカミングデー」を開催しております。

「恩師・旧友との再会」「クイズツアー 谷大今昔」等を企画するなど内容を次のとおり開催します。

また、「ホームカミングデー」をゼミ・クラス同期会、学寮・クラブ等の集場所として位置付けたい。この機会にゼミ・クラス同期会等を開催してはいかがかでしょうか。お仲間をお誘い合わせのうえ、母校大谷大学にお越しください。

詳細は本会報に同封しております
案内状をご覧ください。

【二〇〇七年十一月十日（土）】

【第一部】谷大検定

♪ We Love 谷大 ♪ 会費無料

▼博覧館第一会議室

・ 十三時～十五時

恩師・旧友との再会

クイズツアー「谷大今昔」

・ 十五時～十六時

お楽しみ抽選会

* 十四時三十分までに受付を済ませてください。

▼博覧館第四会議室

・ 十三時～十六時

プレイルーム

（簡単な遊具を設置）

▼学内一円

・ 十三時～十六時

学園祭「紫明祭」バザー参加

響流館自由見学

（ネームプレートで入館可）

* 博物館特別展「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」開催中



プレイルーム

恩師・旧友との再会

【第二部】懇親会 会費五〇〇〇円

▼京都ロイヤルホテル&スパ
・十七時三十分〜十九時

立食パーティー

以上



懇親会風景

支部名称変更、
支部長・事務局交代のご紹介
ありがとうございます
よろしくおねがいいたします

〈支部名称変更〉 福島県

(旧支部名称 福島)

〈埼玉支部長〉 一條 顕良

(前支部長 且保哲夫)

〈湖東支部長〉 満田 法子

(前支部長 斉藤沢巳)

〈久留米支部長〉 廣瀬 海宗

(前支部長 木屋行範)

〈埼玉支部事務局〉 嵩 海史

(前事務局 西島明宣)

OTANI UNSへ参加ください!

大谷大学同窓会が母体となって設立したNPO法人「尋源舎」がいよいよ活動を開始しました。

これまで同窓会企画推進委員会第二部会の検討課題となっていました「若い会員の同窓会活動参加促進・組織化・IT化を図る」ための一つの方策として、「尋源舎」が大谷大学人だけのSNS (Social Networking Service)、「OTAN

I UNS」(OTANI UNIVERSITY Networking Service)をインターネット上で公開いたしました。その概要については次のとおりです。大谷大学の同窓生・学生・教職員だけが参加できます。もちろん、利用料は一切無料です。完全実名制をとっていますから安心して利用できます。有料の広告枠などもご用意しています。

世代を超えたクラブ・ゼミ・県人会・職域のコミュニティや同期会・勉強会などが自由につくれます。使い方はカンタン! 利用方法は、あのmixiとほぼ同様です。

例えば

- ・大谷大学OBで高校教員のコミュをつくってみたい!
- ・かつて在籍したクラブの現役部員に何か支援をしてあげたい。
- ・安心できる環境でクラブOBの掲示板を運営したい。

■参加方法はふたつ。

一、必ず自分のアドレスを明記の上、
zimgensya@gmail.comへ参加をお申し込みください。招待メールをお送りします。

二、友人の招待メールを受け取ってから参加する。(自分が参加した後は、友人に向けて、招待メールを発行できます)

■OTANI UNSは大谷大学の同窓生・学生・教職員だけが完全実名で参加できます。

■参加に際しては
http://mjinto.org/の利用規約をよくお読みください。

同窓の皆様には、お一人でも多くご参加いただきますようお願い申し上げます。

※SNSとは?

(Social Networking Service)
社会的ネットワークをインターネット上で構築する、コミュニティ型会員制サービス。

最近会員数一千万人を超えたmixiが有名ですが、単一大学型SNSも、東大・早稲田・慶応・青山学院などで稼働しています。



母校だより

鈴木幹雄先生、若槻俊秀先生に名誉教授の称号贈られる

大谷大学名誉教授称号授与規程に基づき、本学の教育上また学術上、特に功績のあった先生に贈られる名誉教授の称号が、鈴木幹雄先生（倫理学・フランス現代思想）・若槻俊秀先生（中国哲学史）に贈られました。授与式は四月二日（月）に学長室において行われました。



若槻俊秀名誉教授



鈴木幹雄名誉教授

課程博士の学位を授与

大谷大学ではこのたび、博士後期課程修了者十一名に、博士（文学）の学位を授与しました。学位取得者は、伊東恵深（真宗学）、西本祐攝（真宗学）、藤元雅文（真宗学）、都真雄（仏教学）、村田裕美（仏教学）、村西弘行（仏教学）、CBUNCHIRD（仏教学）、岡本敦之（哲学）、星津香織（社会学）、西山昭仁（仏教文化）、鈴木善幸（仏教文化）の各氏です。



学位を授与された方々

大谷大学教育後援会勤労学生表彰奨学金が贈られる

このたび、教育後援会より勤労学生表彰奨学金が五名の学生に贈られました。この奨学金は、教育後援会が学生生活支援の一環として設立した制度で、家庭からの就学援助が皆無に等しく、学費や生活のほとんどを奨学金やアルバイトにより支弁している者で、なおかつ人物、学業共に他の学生の模範となる勤労学生に対して支給されるものです。



表彰を受けた皆さん

首都師範大学と「学部学生教育に関する共同学位授与プログラム実施協定」を締結

表彰式は、二月二十一日（水）午後二時より、尋源講堂にて執り行われ、頼尊聖教育後援会会長より一人ひとりに表彰状と奨学金（八万円）が贈られ、労いと励ましの言葉が述べられました。

かねてより、学术交流協定校の首都師範大学（北京）と大谷大学とのあいだで協議を重ねてきた共同学位授与プログラムが合意に至り、今般協定を締結いたしました。

この「学部学生教育に関する共同学位授与プログラム実施協定」は、首都師範大学で第二学年を終了し所定の単位を修得した学生を、大谷大学の文学部第三学年に推薦編入学で受け入れるプログラムで、双方の大学が相手側大学の修得単位を認定することにより、大谷大学で第四学年を卒業する時に、大谷大学と首都師範大学の両大学から学位が授与されるものです。

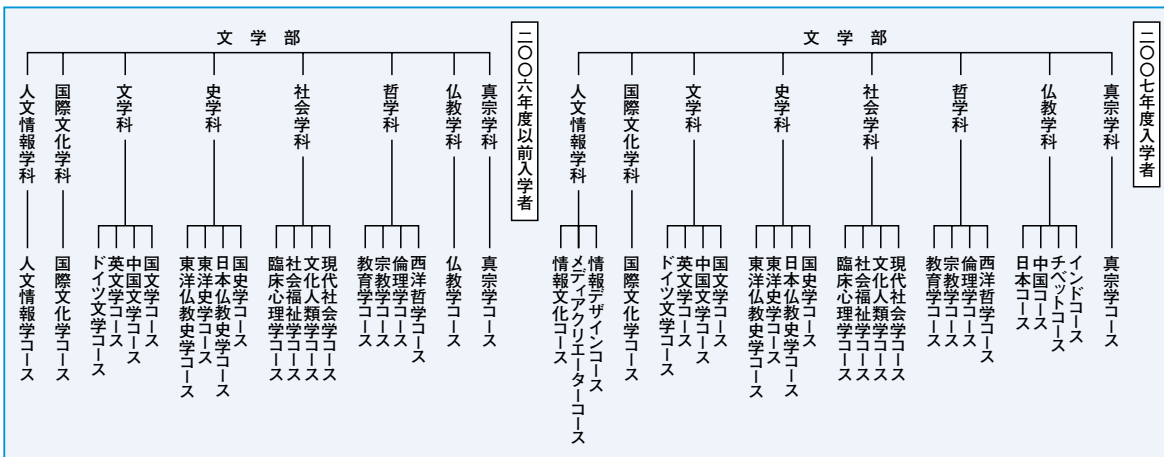
同プログラムはすでに東北師範大学（長春）とも締結しています。当面は学术交流協定校からの受入れのみですが、将来的には大谷大学の学生が学术交流協定校に編入学し、両大学の学位を取得できるよう諸条件を整えて行く計画です。

文学部の「分野」名称が「コース」に変更されました

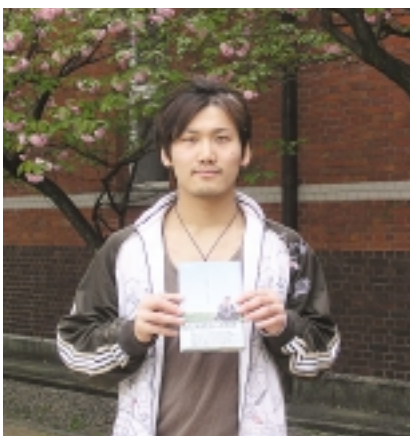
二〇〇七年四月より、従来、文学部各学科に設置されている「分野」が「コース」に変更されました。また、二〇〇七年度新入学生（編入学生は二〇〇九年度）から、仏教学科にインドコース、チベットコース、

母校の動き (2007年4月～2007年8月)

- 4/ 1(日) 【学年始】
- 4/ 3(火) 【入学式】
- 4/ 3(火) ～4/21(土) 【博物館 2007年度春季企画展】
「大谷大学のあゆみ—歴代学長の肖像 明治・大正・昭和」
- 4/ 7(土) 【若葉祭】
- 4/ 8(日) 【釈尊降誕日】
- 4/ 9(月) 【前期授業開始】
- 4/24(火) 【宗祖御命日勤行・講話】
「北朝唐の宗教文化」 礪波 護 本学教授
- 5/17(木) 【同窓会総会】
- 5/22(火) ～8/ 5(日) 【博物館 2007年度夏季企画展】
「仏教の歴史とアジアの文化Ⅵ チベット 求法の旅人」
- 5/24(木) 【大谷学会春季公開講演会】
「元禄文学再考—「かね」ではかる「こころ」と「いのち」—」
沙加戸 弘 本学教授
「貨幣・法・言語と「人間」」 岩井 克人 東京大学教授
- 5/25(金) 【大谷大学教育学会公開講演会】
「私の仕事」 梶井 督也 加古川学園 公務教官
- 5/28(月) 【宗祖御命日勤行・講話】
「山の宗教と海の宗教」 豊島 修 本学教授
- 6/ 2(土) 【宗祖誕生会】
「専修念仏弾圧の歴史的背景」
佐藤 弘夫 東北大学大学院教授
- 6/16(土) 【博物館 2007年度夏季企画展】 ギャラリートーク
三宅伸一郎 本学講師
- 6/17(日) 【教育後援会東海地区父母兄弟懇談会(名古屋市)】
- 6/23(土) 【オープンキャンパス】
- 6/27(水) 【宗祖御命日勤行・講話】
「可死の神 トマス・ホップス『リバイアサン』の表紙を読み解く」
A・デッケ＝コルニル 本学教授
- 6/29(金) 【大谷大学教育後援会評議員会】
- 6/30(土) 【博物館 2007年度夏季企画展】 記念講演会
「チベット仏教美術の魅力」 北村 太道 種智院大学名誉教授
- 7/ 3(火) 【大谷大学文芸学会公開講演会】
「オリンピックを控えた北京の光と驕り」
李 青氏 本学准教授
「女歌の近代と現代—与謝野晶子から俵万智まで—」
安森 敏隆 同志社女子大学特任教授
- 7/ 4(水) 【第1回“人権問題を共に考えよう”全学学習会】
「寄る辺なき時代の希望」 田口ランディ 作家・エッセイスト
- 7/ 7(土) ～8/ 5(日) 【博物館特別陳列 末永雅雄コレクション】
- 7/ 7(土) 【教育後援会北海道地区父母兄弟懇談会(札幌市)】
- 7/ 7(土) 【同窓会地区北海道支部長会】
- 7/ 8(日) 【教育後援会北海道地区父母兄弟懇談会(旭川市)】
- 7/11(水) 【大拙忌記念公開講演会・大谷大学宗教学会】
「中華なき辺境」の宗教性
内田 樹 神戸女学院大学文学部教授
- 7/14(土) 【博物館 2007年度夏季企画展】 特別講演会
「末永考古学とは—末永博士の目ざした研究とその現状—」
河上邦彦 神戸山手大学教授
- 【留学生文化交流会】
- 7/16(祝) 【オープンキャンパス】
- 7/17(火) ～7/31(火) 【安居開講】
本講『顕浄土真実信文類』 安富 信哉 本学教授
次講『浄土論註』 尾畑 文正 同朋大学教授
- 7/17(火) 【第3学年外国人留学生推薦入試】
- 7/24(火) ～7/26(木) 【暁天講座】
24(火) 「こころの取扱い説明書」 佐賀枝夏文 本学教授
25(水) 「世のいのりにこころいれて」 尾畑 文正 同朋大学教授
26(木) 「無縁の大悲」 安富 信哉 本学教授
- 7/27(金) 【宗祖御命日勤行・大谷大学育英奨学生証書授与式】
- 8/ 1(水) ・2(木) 【公募制推薦入試小論文対策講座】
- 8/ 2(木) ～9/20(木) 【夏期休暇】
- 8/ 3(金) 【オープンキャンパス】
- 8/ 4(土) ・5(日) 【オープンキャンパス in kyoto】



中国コース、日本コースが、人文情報学科に情報デザインコース、メディアクリエーターコース、情報文化コースが設置されました。



難波教行さん

大学院修士課程第二学年難波教行さん、自叙伝を出版

大谷大学大学院修士課程真宗学専攻第二学年の難波教行さんが、講談社から『たとえば、人は空を飛びたいと思う—難病ジストニア、奇跡の克服—』を出版されました。

難波さんは、小学二年生のころに難病「ジストニア」を発症し、右手のコントロールを失い、それから成長と共に病気は進行し、大学入学時には体がゆれ続けて歩くことさえ困難な状態となりました。

しかし、難波さんは、そのような状態のなかでも明るさを失わず、家族や友人など多くの人たちに支えられながら、二〇〇三年四月に「アクティバ振戦コントロール治療」という最先端医療の手術を受けジストニアを克服しました。

今回出版された自叙伝は、難波さ

んの半生を振り返りながら、難病を克服していった経緯やその中で感じた様々な思いを綴った手記です。

今回の出版にあたり難波さんは「この本には、僕が障害者として考えてきたこと、人に助けられる喜びと共に、当たり前と思っているすべてのことは、実は感謝できる素晴らしいことなんだ。」という思いをこめました。「ただ歩けるようになる」という願いに向かって歩んだ医学の力、家族の愛、友達に支えられた僕の奇跡への軌跡をぜひ読んでください！」と話してくれました。



中国揚州 仏教教育論壇 (Buddhist Education Forum) に出席

五月十七日(木)、十八日(金)の二日間にわたり中国揚州で開催された仏教教育論壇 (Buddhist Education Forum) に大内文雄図書館長が出席しました。仏教教育論壇は、江蘇省仏教協会と鑑真学院の主催で仏教教育を行う大学や仏学院な



大内図書館長の発表の様子

ど二十七の機関が参加し、それぞれの建学の理念や歴史、仏教教育の現状や課題などについて発表、協議するために開催されたものです。

開会にあたっては、台湾佛光山寺の基金を元に揚州大明寺内に設立された鑑真学院・鑑真図書館の設立開幕式が行われました。鑑真図書館の館長には一九七三年に大谷大学修士課程を修了され、現在佛光山教育院長、佛光大学執行理事などの要職を兼務しておられる慈恵法師が就任しておられます。

仏教教育論壇の大谷大学発表では、大内図書館長は、初代学長清沢満之が「開校の辞」の中で語った「我々において最大事件なる自己の信念の確立」という言葉を紹介し、大谷大学が実施している「人間学」の授業や全学生に配布している学生手帳の紹介をしました。

大谷学会春季公開講演会を開催

去る五月二十四日(木)、大谷学

会春季公開講演会がおよそ五百名の聴衆の参加のもと開催されました。今年度の講師・講演題目は左記の通りでした。

○大谷大学教授 沙加戸 弘氏
「元禄文学再考―「かね」ではかる『ころ』と『いのち』」

○東京大学教授 岩井 克人氏
「貨幣・法・言語と『人間』」

沙加戸教授は、国文学とりわけ江戸文学の専門の立場から、江戸時代における「高度経済成長」の結果として元禄期に文学史上はじめて登場してきた「かね(金)」について講演されました。西鶴や近松において登場する具体的な数字をとまなう「金」と、それに翻弄され、ついには「死」をも選ばざるを得なくなった人間の姿を、「沙加戸節」ともいえる独特の口調で「講釈」されました。

岩井先生は、経済学の立場というよりも



岩井克人氏



沙加戸弘氏

人文社会科学の立場から、現在、人間の科学つまり「本当の意味での人間学」がいかに成立するのかを、「宇宙人から見た貨幣・法・言語」というシンブルかつ本質的な観点から論じられました。物理的、感覚的存在ではないが、人間にとっては欠くことのできない貨幣・法・言語をしておそらく宗教というリアルな実在を考察することこそ人間学であると、クリアにかつ緻密に示してくださいました。(大谷学会)

「宗祖誕生会」厳修

宗祖誕生会が六月二日(土) 午前十時から、講堂において、学園理事を始めとする来賓、教職員、在学生、一般来聴者約四〇〇人の参加を得て厳粛の内に執り行われました。勤行に引き続き、学長挨拶、記念講演が行われました。

今年度の記念講演は、講師に東北大学大学院文学研究科教授佐藤弘夫氏を迎え「専修念仏弾圧の歴史的背景」と題した講演をいただきました。最初に東北大学のある仙台市の青葉山キャンパスにある板碑の紹介から、東日本を中心に鎌倉時代以降一五〇年間に約十萬の板碑が立てられた理由を、古代寺院から中世寺院への移り変わり、国家仏教から寺院が自立を迫られた時代背景を基にお話

いただきました。

また、往生極楽を願って立てられた板碑は、浄土へいざなう垂迹であるとされ、中世寺院の経済的支えとなっていたことを指摘されました。

そして、往生極楽を願っての寺院、仏像の建立や、板碑を立てることは自力であり、それが可能な一部の人々の救済であったのに対し、本願による救済、他力、平等を説く法然の教えが、結果的に当時の寺院の経済的基盤を危うくするものと解され念仏弾圧へと繋がったものと考えられるとのことをお話をいただきました。



佐藤弘夫氏



木村学長の中国訪問

◎浙江財経学院と学术交流協定を締結

五月八日（火）、中国杭州の浙江財経学院と学术交流協定を締結しました。浙江財経学院は、十三の学院（学部）、学生数約一七、〇〇〇名、教員数約八百名の一九七四年に創立された総合大学です。

外国語学院（学部）には日本語語言文学専攻があり、日本文化・経済研究所が併設されています。同学院の教授で日本文化・経済研究所長の王麗萍博士は大谷大学の卒業生であり、大谷大学から同研究所へ日本語書籍を寄付したことがこの交流協定のきっかけとなりました。

五月八日午後、浙江財経学院において木村学長と王俊豪院長（学長）が両校の交流活動について協議、合



学术交流協定書に調印する王俊豪院長（左）と木村学長

意に至り協定書に調印しました。今後、具体的な交流活動が活発に始まることに期待が寄せられます。

◎普陀山佛学院の訪問

浙江財経学院の訪問に続いて五月九日（水）から十二日（土）まで木村学長、八木教育研究支援課長、長谷川慎非常勤講師が、普陀山佛学院と廈門大学を訪問しました。

普陀山は浙江省舟山群島の東部にある周囲二〇kmの島で、五台山、峨眉山、九華山とならぶ仏教四大聖山のひとつです。普陀山佛学院の副院長・教務長の門肅法師は、二〇〇〇年に大谷大学において外国人留学研究として木村学長指導のもと仏教学を学んでいらつしゃいました。現在は、後進の指導や寺院建立のため精力的な活動をしていらつしゃいます。木村学長をぜひ、普陀山へ招待したいという門肅法師の願いが実現



門肅法師（左）と木村学長

し、今回の再会となりました。門肅法師の案内のもと、建築中の中国佛学院教育学院の見学、中国仏教協会副会長の戒忍法師との会談、木村学長の特別講義も開催されました。大谷大学の仏教学研究者の佛学院への派遣要請など、今後の交流について合意がなされました。

◎廈門大学人文学院で学術講演

廈門大学人文学院（学部）哲学系（学科）宗教学研究室の副教授、林観潮博士は大谷大学博士後期課程仏教文化専攻を二〇〇四年に修了した同窓生で、現在、大谷大学同窓会の中国支部副支部長でもあります。また、外文学院日本語学科の呉光輝副教授も大谷大学で研修員として在籍しておられた方です。今般の木村学長の中国訪問にあわせて、廈門大学人文学院での木村学長の学術講演会を企画されました。



廈門大学学生・閩南佛学院生に特別講義する木村学長

五月十二日(土) 廈門大学と隣接する南普陀寺・閩南佛学院講堂において「大谷大学の古典籍と中国文化の研究」と題して行われた木村学長の講演には、廈門大学と閩南佛学院教員・学生あわせて約四〇〇名が出席し、熱心に聞き入っていました。また講演終了後、熱心な意見交換が行われました。

講演に先立って木村学長は呉世農国際交流担当副学長と会談を行い、今後の両大学の交流について協議を行いました。今後の両大学の交流が期待されます。

木村学長の韓国訪問

◎東國大 慶州キャンパスを訪問
六月四日(月)、五日(火)に木村学長、藤島名誉教授・同窓会長、喜多講師と国際交流担当の職員が韓国の学術交流協定校である東國大慶州キャンパスを表敬訪問しました。

東國大慶州はソウルと慶州にキャンパスを持っており、一九九七年の学術交流協定締結以来、主にソウルキャンパスとの共同研究や学生の交流を進めておりましたが、今後、慶州キャンパスとの交流を具体的に始めるにあたり表敬訪問をしました。

◎東西大 釜山との学術交流協定を締結
六月五日(火)、韓国釜山の東西大と学術交流協定を締結しまし

た。調印式では木村学長と朴東順東西大校長が協定書にサインをしたあと、大谷大校長がサインしたパネルを調印室にはめ込みました。

東西大は一九九二年に設立されたキリスト教の精神を建学の理念とする総合大学で、時代の最先端をいく情報設備を完備し、十四学部を擁しています。また、二〇〇三年に日本研究センターを設立し、日本との交流にも力を注いでいます。

東西大との交流は大谷大短期語学研修団の送り出しや東西大出身の学生受け入れなど、十年以上前からすでに始まっており、二〇〇〇年に大谷大で博士号を取得された金大植氏が日語日文学科教授として活躍しておられます。

今回、学術交流協定が正式に締結されたことで、宗教を基盤とする両校の交流がさらに緊密になることが期待されます。



調印後握手する朴東順総長(左)と木村学長

「大谷大学 近隣昔の写真展」 CD-ROM完成

二〇〇六年十二月五日(火)〜二十三日(土)に開催されました「大谷大学 近隣昔の写真展」では、連日多くの方々に来場いただき、大変好評のうちに終了いたしました。

今回、写真展に提供いただきました写真のデジタル保存化を企画し、約一五〇点の写真を収録したCD-ROMを製作いたしました。ご希望の方には、一部五〇〇円(郵送の場合は六〇〇円)にて販売しています。

大谷大学では、今後も写真展の開催を企画しています。学生時代の大学の様子や行事、近隣地域の昔の写真をお持ちの場合には、ご提供をお願いします。

【お問合せ先】
写真提供・CD-ROM購入
大谷大学企画室
TEL 〇七五・四一一・八一二五

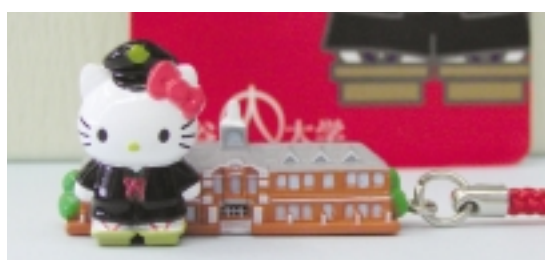


大谷大学オリジナルグッズが 完成

大谷大学オリジナルグッズとして、オリジナルとHELLO KITTYストラップが完成しました。



オリジナルタンブラーの価格は九〇〇円です。持参するとBig Valley Cafe(ビッグバレーカフェ)にて、全てのドリンクが二〇円引きで購入できます。また、ストラップは



尋源館をモチーフにしたもので四五〇円で販売しています。ともにBig Valley Cafeと購買部で販売していますので、ぜひお買い求めください。

人事

部局長の交代

学生部長 佐賀枝 夏文
(前学生部長 一楽 真)

二〇〇七年四月一日付

館長などの交代

「真宗総合研究所主事」廣瀬 幸市
(前真宗総合研究所主事 浅見 直一郎)

「人権センター長」藤嶽 明信
(前人権センター長 泉 惠機)

「学寮長」東館 紹見
(前学寮長 織田 顕祐)

二〇〇七年四月一日付 (各通)

退職・解任

*定年退職

【教育職員】

鈴木 幹雄 (教授・文学部)
若槻 俊秀 (教授・文学部)

荒牧 典俊 (特別任用教授・文学部)
小野 蓮明 (特別任用教授・文学部)

蜂屋 良彦 (特別任用教授・文学部)

*契約期間満了による退職

【任期制講師】

田村 晃徳 (文学部)

【任期制助手】

川端 泰幸 廣川 智貴
藤田 直子 藤元 雅文

本井 牧子 義盛 幸規

若見 理江

【事務系嘱託】

浅井 恵 (教育研究支援部)
安藤亜津子 (総務部)

飯塚 恵子 (教育研究支援部)

大垣磨己子 (学生支援部)

柏 淳子 (教育研究支援部)

久保 法子 (教育研究支援部)

清水 美穂 (教育研究支援部)

武邑 知子 (教育研究支援部)

中井 晴恵 (教育研究支援部)

永井 詞子 (教育研究支援部)

濱口 映子 (教育研究支援部)

福岡 真美 (学生支援部)

堀田香代子 (総務部)

前田 真代 (教務部)

松村 瑛子 (学生支援部)

山崎 悠子 (企画室)

山下 智美 (校友センター)

要田 有希 (学生支援部)

【寮監】

青木 玲 (貫練学寮)

【学生相談員】

菊岡 千夏

二〇〇七年三月三十一日付 (各通)

*依願退職

【教育職員】

禿 憲仁 (教授・文学部)

【任期制助手】

三浦誉史加

【事務職員】

広原 正信 (教務部)

二〇〇七年三月三十一日付 (各通)

*死亡による退職

【教育職員】

加藤 尚子 (教授・文学部)

二〇〇七年六月三日付

新規採用

【教育職員】

國中 治 (教授・文学部)

廣川 智貴 (講師・文学部)

藤谷 昌紀 (講師・文学部)

藤元 雅文 (講師・文学部)

古屋 哲 (任期制講師・文学部)

西本 祐攝 (助教・短期大学部)

【客員教授】

櫻井 敏雄 寺川 俊昭

【任期制助教】

安藤 義浩 大野 僚

加藤 基樹 佐々木茂人

佐藤 愛弓 富岡 量秀

人見 牧生 福田 恵

源 真帆

【事務職員】

内堀 陽子 (総務部)

【事務系嘱託】

白井 理恵 (総務部)

榎川みのり (教育研究支援部)

川勝 直子 (教育研究支援部)

近藤 聡子 (学生支援部)

酒井 絵理 (教務部)

坂田 恵美 (学生支援部)

佐々木晃子 (企画室)

佐々木玲加 (教育研究支援部)

佐藤 雅子 (教育研究支援部)

佐野 千恵 (学生支援部)

清野 暁子 (企画室)

徳正 絢子 (学生支援部)

戸田 佳世 (総務部)

中出 美保 (校友センター)

深澤 淳子 (教務部)

森本 早保 (教育研究支援部)

【寮監】

花園 一実 (貫練学寮)

【学生相談員】

神田 敬子

【キャリアアドバイザー】

早川 徹

【学生募集アドバイザー】

佐々木かな子

二〇〇七年四月一日付 (各通)

【事務系嘱託】

田中 恵理 (入学センター)

二〇〇七年五月一日付

昇格

【教授】

織田 顕祐 (文学部)

加治 洋一 (短期大学部)

番場 寛 (短期大学部)

宮崎 健司 (文学部)

村松 法文 (文学部)

安井 喜行 (文学部)

山下 憲昭 (文学部)

【准教授】

井上 摩紀 (短期大学部)

【講師】

山田 恵文 (短期大学部)

二〇〇七年四月一日付 (各通)

二〇〇七年四月より法令改正に伴い、
助教は准教授に、助手は助教に変
更となりました。

配置転換など

*配置転換

【実習助手】 ↓ 「大谷幼稚園教諭」

竹田ひとみ

*職種変更

【実習助手】 ↓ 「事務職員」

大塚 政子 (教務部)

山本 真理 (教務部)

二〇〇七年四月一日付 (各通)

二〇〇七年度 学科主任一覧

【文学部】

真宗学科 藤嶽 明信

仏教学科 織田 顕祐

哲学科 朴 一 功

社会学科 矢野のり子

史学科 宮崎 健司

文学科 石橋 義秀

国際文化学科 鄭 早 苗

人文情報学科 福田 洋一

【短期大学部】

仏教科 一色 順心

文化学科 番場 寛

幼児教育保育科 大城 邦義

以上

二〇〇七年度
春季課外活動結果

【団体成績】

- 卓球部 (男子)
 - ・関西学生卓球連盟春季リーグ戦 Ⅲ部Aリーグ四位 二勝三敗
- 卓球部 (女子)
 - ・関西学生卓球連盟春季リーグ戦 Ⅲ部Bリーグ五位 一勝四敗
- 柔道部 (男子)
 - ・京都学生柔道連盟京都学生柔道大会 Ⅱ部三位 二勝一敗
- 硬式野球部
 - ・京滋大学野球連盟春季リーグ戦 Ⅰ部四位 六勝六敗
- サッカー部
 - ・関西学生サッカー連盟春季リーグ Ⅲ部Aブロック四位 五勝二敗一分
- 剣道部 (男子)
 - ・西日本学生剣道選手権 二回戦敗退
- バスケットボール部 (男子)
 - ・関西学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退
 - ・西日本学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退
 - ・春季京都学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退 一勝一敗

●バスケットボール部 (女子)

- ・関西女子学生バスケットボール選手権大会 三回戦敗退 二勝一敗
- ・西日本学生バスケットボール選手権大会 予選ブロック敗退

●ソフトテニス部 (男子)

- ・関西学生ソフトテニス連盟 春季リーグ戦 V部Cブロック二位 二勝一敗

●ソフトテニス部 (女子)

- ・関西学生ソフトテニス連盟 春季リーグ戦 VI部Aブロック三位 一勝二敗

●バレーボール部 (男子)

- ・関西大学バレーボール連盟 春季リーグ戦 V部四位 三勝四敗

●バトミントン部 (男子)

- ・京都学生バトミントン連盟 春季リーグ戦 Ⅲ部二位 四勝一敗
- ・関西学生バトミントン連盟 春季リーグ戦 VI部Dブロック二位 三勝一敗

●バトミントン部 (女子)

- ・京都学生バトミントン連盟 春季リーグ戦 Ⅰ部五位 一勝四敗
- ・関西学生バトミントン連盟 春季リーグ戦 Ⅲ部五位 三勝三敗

【個人成績】

●硬式野球部

- 〈京滋大学野球連盟春季リーグ戦〉
- 【最優秀投手】
- 坂本 英之

(文学部史学科 第四学年)

【ベストナイン】

- ・外野手 小林 憲児

(文学部史学科 第三学年)

- ・指名打者 谷川 慎吾

(文学部人文情報学科 第二学年)

【打撃ベストテン】

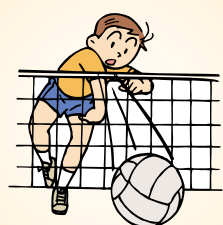
- ・第三位 小林 憲児 (文学部史学科 第三学年)
- ・第六位 谷川 慎吾 (文学部史学科 第三学年)

●跆拳道部

〈W・A・T・A OPEN〉

テコンドー選手権大会

- 【女子一般 初級ライト級】
- 準優勝 清水 麻友 (文学部哲学科 第二学年)



教育振興資金(募金)のご案内

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。本学は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。

二〇〇七年二月一日から二〇〇七年六月三十日までの間でのご寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

◆件数 三〇件

◆寄付金総額 三、七六、〇〇円

「教育振興資金寄付者(敬称略)」

- 芦田 公弘 池田 俊朗 池田 深雪
- 岩波 勇 稲木 康範 大橋 義孝
- 君野 締賢 清澤 善 櫻居 和彦
- 佐藤 道代 志村 岩夫 田 信
- 白城 寿一 滝 薫 龍山 和祐
- 田宮 経夫 千葉 敏 出嶋 英和
- 戸次 順英 平田 弘一 廣住 文思
- 藤原 彰玄 松田 恭二 渡部 良治
- 匿名(一件)
- 株ナイスケア・ステーション
- 株フラットエージェンシー
- (有)石間企画事務所
- 三宅法律事務所
- 昭和四十七年三月
- 幼児教育科卒業生 有志一同

追悼 加藤尚子先生

文学部国際文化学科教授（元短期大学部幼児教育科教授）加藤尚子先生が、六月三日（日）午前十一時に急逝されました。享年六十三歳でした。

加藤先生は、奈良女子大学理学部生物学科（植物学専攻）を卒業され、京都大学大学院理学研究科（植物学専攻）博士課程に進まれ、「バクテリオ・ファージT3の頭部形態形成」の研究で博士号を取得されて、昭和五十一年四月に大谷大学に來られました。所属は短期大学部幼児教育科でしたが、文学部も兼任され、文・短ともに自然科学概論と化学を担当されました。加えて幼教では、保育内容の「自然」（現在は「環境」と「仏教保育総合ゼミ」（現在の「仏教保育演習」）を担当され、また「保育総合演習」と「野外活動」の授業を担当してくださいました。



加藤先生の、素直で率直なお人柄は、たいへん親しみやすく、何でもお話できました。特に主任になつていただいていたからは、先生の下でいろいろなる仕事をさせていただきました。先生は、問題・課題にまっすぐに向き合おう、本当に正直な方でいらつしやいました。ごまかしや嘘のないその姿勢は、一緒に仕事をしていて手ごたえのある、すがすがしいものでした。

先生のご専門は分子生物学ですが、研究者としても評価されておられた先生は、一九八六年九月から一年半、スイスのバーゼル大学に客員教授として招聘され、在外研究をされました。理系の研究者として厳しい研究姿勢を持つておられた先生は、筋の通った明瞭な姿勢で教育にも当たられ、学問研究も教育も自分に甘くなればだめになつてしまうことを教えてくださいました。

今はもう彼岸へと旅立ってしまったわれましたが、花がお好きだった先生と花見やハイキングに行った写真と、スイスから送ってくださった数枚のポストカードとが、先生の面影とともに残っています。先生、本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。

大谷大学短期大学部講師

大 城 邦 義

大谷大学教員の出版物紹介

- ◎『親鸞の信仰と思想―真宗・われらの大地―』
小野蓮明 著 法藏館 刊
(二〇〇七・二) 三三二頁
- ◎『熊野―その信仰と文学・美術・自然』
国文学解釈と鑑賞 別冊
林雅彦 編 豊島修 分担執筆
至文堂 刊
(二〇〇七・一) 二九六頁
- ◎『親鸞聖人に学ぶ―真宗入門』
一楽真 著 東本願寺出版部 刊
(二〇〇七・四) 二四三頁
- ◎『教義と社会』
村松法文 著 文栄堂書店 刊
(二〇〇七・二) 一四三頁
- ◎『風景画の窓』
國中治 著 れんが書房新社 刊
(二〇〇七・五) 二八八頁
- ◎『複雑系から見た心理療法理解―心理療法基礎論に向けて―』
廣瀬幸市 著
大谷大学真宗総合研究所 刊
(二〇〇七・三) 一五八頁
- ◎『自然とヴィジョンの詩学―ワーズワス、コールリッジ、エリオット』
宮川清司 著 英宝社 刊
(二〇〇七・五) 二六三頁
- ◎『朝倉心理学講座9 臨床心理学』
桑原知子 編 廣瀬幸市 分担執筆
朝倉書店 刊
(二〇〇七・四) 一八二頁
- ◎『多元的世界における寛容と公共性―東アジアの視点から―』
芦名定道 編著 阿部利洋 分担執筆
晃洋書房 刊
(二〇〇七・三) 二三二頁
- ◎『図録 メコンの世界―歴史と生態』
秋道智彌 編 高井康弘 分担執筆
弘文堂 刊
(二〇〇七・三) 一四七頁
- ◎『越境する移動とコミュニティの再構築』
佐々木衛 編 高井康弘 分担執筆
東方書店 刊
(二〇〇七・三) 二七〇頁
- ◎『京大心理臨床シリーズ5 心理臨床における個と集団』
岡田康伸ほか 編 谷口奈青理 分担執筆
創元社 刊
(二〇〇七・三) 五一四頁
- ◎『中國學論叢 若槻俊秀教授退休記念』
大谷大學文藝學會 編
乾源俊・稻垣淳央・本井牧子・浦山あゆみ・李青・佐藤義寛
(二〇〇七・三) 五二八頁
- ◎『東別院伝道叢書30 愚禿の名のり』
一楽真 著
真宗大谷派名古屋別院教化事業部 刊
(二〇〇七・三) 四七頁
- 『学内刊行物』
◎『人権センター叢書Vol.3』
大谷大学人権センター 編・刊
(二〇〇七・三) 六四頁

2007年度後期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、現代社会をいかに生きるのかをテーマとする講座、京都の文化の奥深さを知る講座など、切り口は多様ですが、共通するテーマは「人間」です。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内

1	テーマ	NPO法人尋源舎 協賛 大乗仏教のあゆみ—親鸞の眼を通して—①「総論—教主釈尊—」
	講師	木村宣彰(大谷大学長・教授)
	開講日	10月31、11月14、12月5日(水曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

2	テーマ	NPO法人尋源舎 協賛 大乗仏教のあゆみ—親鸞の眼を通して—②「大乗仏教の礎—龍樹—」
	講師	兵藤一夫(大谷大学教授)/宮下晴輝(大谷大学教授)/木越康(大谷大学准教授)
	開講日	2008年2月13・20・27、3月5・12・19日(水曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	

3	テーマ	異端の俳人 芭蕉の見た夢—『おくのほそ道』が開いた世界—
	講師	沙加戸弘(大谷大学教授)
	開講日	10月18・25、11月1・15・22・29日(木曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	

4	テーマ	いま、家族に起こっていること、家族にできること
	講師	松村尚子(大谷大学教授)/安井喜行(大谷大学教授)/山下恵昭(大谷大学教授)
	開講日	10月22・29、11月5・26、12月3・10日(月曜日)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	6,000円(税込)	

紫明講座のご案内

1	テーマ	本願寺はなぜ京にあるのか
	講師	大桑齊(大谷大学名誉教授)
	開講日	12月6・13・20日(木)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

2	テーマ	南アフリカにおける真実と和解
	講師	阿部利洋(大谷大学講師)
	開講日	2月12・19・26日(火)
	時間	14:00~15:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

3	テーマ	自然と文学—自然詩人ワーズワスの世界—
	講師	宮川清司(大谷大学教授)
	開講日	2月19・26、3月4日(火)
	時間	18:00~19:30
	定員	100名
	会場	メディアホール
受講料	3,000円(税込)	

京都学講座のご案内

1	テーマ	歴史的遺産としての琵琶湖疏水
	講師	白木正俊(京都市琵琶湖疏水記念館嘱託研究員) 矢ヶ崎善太郎(京都工芸繊維大学工芸学部准教授) 今江秀史(京都市文化財保護課文化財保護技師)
	開講日	10月13・27、11月3・24、12月1日(土曜日)
	時間	講座 14:00~15:30 フィールドワーク 13:00~16:00
	定員	100名
	会場	10月13・27日は2101教室 11月3・24日は1213教室 12月1日は現地実習
受講料	講座のみ 4,000円(税込) 講座とフィールドワーク 6,000円(税込)	

【申し込み方法】

講座案内を請求される場合にはハガキ、ファックス、Eメールいずれかにて、①氏名・フリガナ②〒・住所③電話番号を明記してください。また講座を申し込みの場合は、上記①~③に④講座名を明記の上、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係

TEL:075-411-8161(直通) FAX:075-411-8162 E-mail:opensemi@sec.otani.ac.jp

*講座名等とは変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

日本民俗学会 第五十九回年会

日程

十月六日(土)
七日(日)
八日(月)

場所

大谷大学(京都市北区小山上総町)

テーマ

仏教と民俗

年会実行委員会

豊島 修(実行委員長)
石橋 義秀、大森 恵子、奥村 隆彦、
小栗栖健治、蒲池 勢至、木場 明志、
小嶋 博巳、鈴木 昭英、根井 浄、
日野西真定、平野 寿則、村上 忠喜、
小林 靖久、八木 透、山本 殖生、
吉川 祐子、吉田 清〔五十音順〕

年会事務局

木場 明志(事務局長)、
平野 寿則(事務局次長)、
大谷めぐみ、加藤 基樹、菊池 政和、
鈴木 善幸、橋本 章彦〔五十音順〕

連絡先

〒六〇三—八—一四三
京都市北区小山上総町 大谷大学豊島研究
室 気付

〔TEL&FAX〕〇七五・四一一・八〇一五
〔E-MAIL〕nenkai2007@otani.ac.jp





直心行射会・OB総会・懇親会 (2006.12.3)
 現役の部員を目の当たりにすると、当時を思い出し、私もここで
 過ごしてきた事を懐かしく思い、卒業生・現役とも意義ある1日
 でした。

同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで



荒牧典俊教授退職記念パーティー (2007.2.23)
 荒牧ゼミ同窓会を、先生の退職記念パーティーとして
 開催しました。多くの卒業生が参加下さり、荒牧
 ゼミらしい会合になりました。



鈴木幹雄先生ご退任記念パーティー (2007.2.24)
 先生の人柄を慕って、33年間の教え子が全国から集まりました。
 時間があっという間に過ぎた和気藹々としたパーティーでした。



人文情報学科第1期生同窓会 (2007.3.3)
 約3年ぶりの先生方・友人との再会となり、大いに楽しみました。早速、人文1期HPを
 作り、また集まろうということになりました！



元硬式野球部長若槻俊秀教授定年退職お祝いの会 (2007.3.3)
 2度のリーグ制覇を見守っていただいた、若槻先生の定年退職に際し、感謝の意をこめてOB有志が集いました。

'98「自灯会」(1998年入寮自灯学寮同期会)(2007.3.3)

小谷先生を囲んで、約5年ぶりに集まりました。久しぶりの再会でしたが、5年の月日を感じさせないのは、やはり1年間同じ屋根の下で家族のように暮らしたからでしょうか。各々、近況報告をし、寮時代には聞くことができなかった話で盛り上がり、寝食をともにした2日間は寮生に戻ったようでした。



貫練学寮第16期生同期会(2007.3.3)

去る3月3日(土)・4日(日)一泊二日の日程で、愛知県南知多温泉郷「花乃丸」にて貫練学寮第16期生、初の同期会を開催しました。卒業以来11年ぶりに集まった寮生は、みんなとても元気でした。



若槻俊秀教授御退休記念・最終講義並びに記念祝賀会(2007.3.10)

若槻先生の最終講義に引き続き、退職をお祝いする祝賀会を行いました。いずれも卒業生ほか多くの方にお越し頂き、盛会でした。



アメリカ民謡研究部OB・OG会(2007.5.5)

アメ民初の同窓会!! 40名以上の参加で大変楽しい会となりました。次回は目指せ100名!!



2006年卒業大和ゼミ幼教科同期会(2007.3.10)

久しぶりに会った仲間達。皆の笑顔を見てこれからも頑張ろうって気持ちになりました。とっても楽しい一日だったね!



臼井先生・鍵主先生をかこむ会 (2007.5.10)
両先生のお陰様で、4年振りの楽しい集いもてたことに感謝しつつ、「還暦」を迎える3年後の再会を約束。



昭和20年入学「洗心会」(2007.5.9)
年に一度の出会いの場として、今年は鹿児島を会場に「洗心会」を開催しました。青春時代に戻り、旧交を温めました。



第21回「谷大一八会」(2007.5.17)
おかげさまで今年もレギュラーメンバーが揃いました。話題はやっぱり戦時中の学生生活の思い出。なつかしい京都へ集って1泊2日。



一六会 第20回越後大会 (2007.5.15)
昭和18年12月1日を境に、学徒が兵士になり、気がつけば65年の歳月が流れていた。毎年集まり出して早20回。御開山御流罪八百年を記念して、越後の国で今、幕を引く。



第31回浄眼洞一夜研修会 (2007.5.26)
今年は京都に集まりました。何十年たっても話題の中心は、いつも仏法・大谷大学・山田先生そして華厳と、全く変わりません。不思議です。



大谷大学昭和33年入学同期会 (2007.5.23)
卒業して50年ぶりの友もあり、夜のふけるのも忘れての大分県府での同期会。人生の終りに毎年の同期会を約束して、来年は北海道。



昭和47年卒業幼教クラス会 (2007.6.2)
卒業後35年で初めてのクラス会。半数近くの出席で大いに盛り上がり2年後再会を約束しました。



2005年卒寺林ゼミ同期会 (2007.5.26)
今回は仕事の忙しい中、鳥取から渡辺君が参加してくれました。たいへん盛り上がり、みな寺林先生に会いたがっていましたよ！

大和ゼミ大集合同窓会 (2007.6.3)

大和先生を囲んで楽しくお話ししました。かわいいお子さんの参加もあり和やかな会となりました。次回開催の際も皆さん御参加ください。



昭和52年卒短国 井口先生クラス会 (2007.6.3)

数年ぶりに会えた懐かしい顔。大学時代に戻れた一時。思い出話に花が咲き、永き友たちとまたの再会を約束して。



昭和52年度大谷大学自灯学寮入寮生同窓会 (もぐら会) (2007.6.9)

自灯学寮で出会ってから?年。有馬温泉で集まり、翌日は谷大で稲垣先生に再会。よく笑い、よくしゃべり続けた楽しい2日間でした。



第31期大谷大学バレーボール部OB・OG会 (2007.6.24)

当日は、午後から現役チーム・OBOGチームとの交流戦を行い、和気あいあい良き交流の場となりました。



2004年度谷口ゼミ卒業クラス会 (2007.6.16)

卒業して早2年、初めてのクラス会。当時の話や近況報告で盛り上がり、楽しいひとときでした！次回は全員で集まりたいなあ☆

〒600-8153
京都市下京区東本願寺大門前
電話 (075) 351-3681(代)
FAX (075) 351-5563

(株) 小安 湯 煮 庵

三代目 中島弘道
(1993年3月 短国卒業)

ただ今改装中。12月1日再オープンいたします。忘年会、新年会などご予約受付中！
※お料理 5,000円～、ふぐ、クエなど各種鍋料理。～20名様まで。
TEL:075-351-2849 mail:info@oyone.com http://www.oyone.com/
〒600-8092 京都市下京区綾小路高倉西入 宗料理 およね



名畑崇先生ゼミ同窓会 (2007.6.30)
先生を交えて30数年ぶりに懐かしい顔を合わせ、昔日のキャンパスを想い、旧交を温め、楽しく有意義なひと時を過ごしました。



昭和55年入学Fクラス同期会 (2007.7.5)
同期生ひとりの「キャリア支援リレー講義」講師としての来学をきっかけに、みんなで集まることができました。20数年ぶりの再会に話はずきませんでした。



大谷大学体育会ソフトテニス部OB会 (2007.7.1)
今回のOB会も大変素晴らしいものとなりました。OBの方々にも喜んでいただけたこともよかったです。



2006年度文化学科卒業東館ゼミ同期会 (2007.7.14)
卒業して初の同窓会。急な企画ということもあり、今回は少ししか集まれなくて残念でした。次回はぜひ全員参加で行たいです。



大谷大学社会学教室同期会 (昭和39年3月卒業) (2007.7.11)
還暦を迎えてから隔年開催。今回は「和倉温泉」で、深夜まで尽きない話に乾杯！翌日は奥能登一周 (広栄寺で休憩) し、夕方金沢駅で解散。

第32回大谷大学バスケットボール部OB・OG会 (2007.7.7)
昨年9月にリニューアルしたBig Valley Cafeで懇親会を行い、見事に改装された姿に皆さん驚いておられました。
今年6月から販売されているオリジナルストラップ (尋源館KITTY) を、目を輝かせて見ておられるのも印象的でした。

ぼくは、ただ、歩きたかっただけ——。

難病ジストニア。身体の筋肉が収縮し、字も書けず、歩くこともできない状態から、奇跡的に回復した青年の感動の手記。

ISBN 978-4-06-13923-6

たとえば、人は空を飛びたいと思う

大谷大学院生 **難病ジストニア、奇跡の克服**

難波教行 定価 1365円(税込)

〒112-8001 東京都文京区音羽2-12-21 **講談社**

感動する彩り、いつまでも鮮やかに。

Heartful Communication Company
佐川印刷株式会社
ホームページアドレス <http://www.spcom.co.jp>

一九七〇・三(短・仏)卒業の浅井です
高橋君、次回同窓会の案内を待っています。

浅井法衣店

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2006.12. 3 (日)	直心行射会・OB総会・懇親会
2007. 2.23 (金)	荒牧典俊教授退職記念パーティー
2007. 2.24 (土)	鈴木幹雄先生ご退任記念パーティー
2007. 3. 3 (土)	人文情報学科第1期生同窓会
2007. 3. 3 (土)	貴練学第16期生同期会
2007. 3. 3 (土)	'98「自灯会」(1998年入寮自灯学寮同期会)
2007. 3. 3 (土)	元硬式野球部長若槻俊秀教授定年退職お祝いの会
2007. 3.10 (土)	若槻俊秀教授御退休記念・最終講義並びに記念祝賀会
2007. 3.10 (土)	2006年卒業大和ゼミ幼教科同期会
2007. 5. 5 (土)	アメリカカ民謡研究部OB・OG会
2007. 5. 9 (水)	昭和20年入学「洗心会」
2007. 5.10 (木)	臼井先生・鍵主先生をかこむ会
2007. 5.15 (火)	一六会 第20回越後大会
2007. 5.17 (木)	第21回「谷大一八会」
2007. 5.23 (水)	大谷大学昭和33年入学同期会
2007. 5.26 (土)	第31回浄眼洞一夜研修会
2007. 5.26 (土)	2005年卒寺林ゼミ同期会
2007. 6. 2 (土)	昭和47年卒業幼教科クラス会
2007. 6. 3 (日)	昭和52年卒短国 井口先生クラス会
2007. 6. 3 (日)	大和ゼミ大集合同窓会
2007. 6. 9 (土)	昭和52年度大谷大学自灯学寮入寮生同窓会(もぐら会)
2007. 6.16 (土)	2004年度谷口ゼミ卒業クラス会
2007. 6.22 (金)	児童教化研究会同窓会
2007. 6.24 (日)	第31期大谷大学バレーボール部OB・OG会
2007. 6.30 (土)	名畑崇先生ゼミ同窓会
2007. 7. 1 (日)	大谷大学体育会ソフトテニス部OB会
2007. 7. 5 (木)	昭和55年入学Fクラス同期会
2007. 7. 7 (土)	第32回大谷大学バスケットボール部OB・OG会
2007. 7.11 (水)	大谷大学社会学教室同期会(昭和39年3月卒業)
2007. 7.14 (土)	2006年度化学科卒業東館ゼミ同期会
2007. 7.15 (日)	書道部S48入学同学年の会
2007. 7.16 (月)	1978年卒幼児教育科同窓会
2007. 7.30 (月)	谷大40卒同窓会
2007. 8.11 (土)	75会(1975年文学部社会学科入学)



1978年卒幼児教育科同窓会(2007.7.16)

卒業して気づけば、はや30年。会えば懐かしい顔、顔、顔。昨日のこのように思い出がよみがえる。元気で必ずまた会おうと約束。



谷大40卒同窓会(2007.7.30)

当初は25人の参加申込みでしたが、さすが未だ現役の方も多く、当日に近づくに従って欠席続出で、結果20名の参加で楽しく過ごしました。



75会(1975年文学部社会学科入学)(2007.8.11)

卒業して28年。初孫ができた人もいますが、会場では、まるで昔のコンパにタイムスリップしたみたいに盛り上がりました。



書道部S48入学同学年の会(2007.7.15)

2、3年に1度会えるように計画しています。あの頃大学でできた絆は、これからの私たちも繋いでいてくれると思います。

『無盡燈』への
広告掲載募集!

機関紙『無盡燈』(「同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会」報告ページ)に広告を掲載することができます。

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告の掲載にご協力いただきますようお願い申し上げます。

広告掲載料金・申込方法は次のとおりです。

- ・全一段(タテ六cm×ヨコ一八cm) 一〇〇、〇〇〇円
- ・1/2段(タテ六cm×ヨコ八.九cm) 五〇、〇〇〇円
- ・1/4段(タテ六cm×ヨコ四.四cm) 二五、〇〇〇円

申し込みは、電話、FAXまたはEメールで「大谷大学校友センター」までお申し出ください。

TEL 〇七五・四一一・八一二四
FAX 〇七五・四一一・八一五七
E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

「ベトナム・ハノイでの研究生生活」 大西 和彦

(一九八四年大学院博士後期課程満期退学)

一九九二年十月二十八日、漢字文化圏に属するベトナムの道教・民間信仰史の研究とベトナム語の学習のため、ハノイに住み始めました。

当時のハノイは、ベトナムの首都とはいえスパーはおろか交通信号すらなく、在留邦人の数も僅か八十七名を数えるのみでした。

生活が不自由な反面、ベトナムに来る前には、その存在や継承を危惧していた伝統宗教や民間信仰を、いたる所で目にする事ができました。現在でも、社寺などの宗教施設だけではなく、ハノイの民家でも内外の書物では取り上げられていないか、具体的記述の少ない道教系の儀礼が頻繁に行われています。

しかし、明らかに道教系の儀礼が行わ



れているのに、参加している人々は「これは仏教の儀礼である」と外国人の私に教えてくれます。しかも、このように一見混沌とした中にも、神仏、宗教職能者、儀式内容には、多様な形で区分があるのです。例えば仏僧でも道教儀礼を行う場合は、名義上「道士」と名乗る必要があります。知れば知るほどベトナムの伝統宗教の奥深さを改めて思う日々です。

現在のハノイは、年間百億ドルともいわれる外資が集中し急速に発展しています。街路には、日本のODAで整備された交通信号システムがあり、スパーの入った高層ビルが林立し始めています。

近代化が進む中で、先に述べたような伝統文化も回復し維持されています。反面、三〇年以上続いた戦争により、三世代の国民の大部分が漢字教育を受けていません。僧尼など宗教職能者や宗教研究者の多くも、ベトナム語の翻訳のみを使用しています。現在この状況からの脱却が、仏教界や研究機関で図られようとしており、微力ながら私も、大谷大学で学んだ東洋学を、長年御世話になっているベトナムに還元できないか模索しています。

(国立ハノイ宗教研究院・客員研究員)

結婚
おめでとうございます



幸せなご家庭を築かれることを
念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

泉 達也	● 奥田 雅子(一九七〇)
曾我 円成(二〇〇〇博)	● 古川 智子
林 光太郎(一九五五)	● 秋月 摩耶(一九四〇)
鳥宮 隆法(二〇〇七修)	● 田中 彰子(二〇〇四修)
矢幡 真吾(二〇〇二文)	● 渡邊 奈緒
藤内 淳心(二〇〇六修)	● 山田 亜満
西本 祐攝(二〇〇四博)	● 山本あゆみ
藤岡 照也(一九八五)	● 新保 法子(二〇〇四文)
小川 直人(二〇〇二博)	● 金城 章子(二〇〇二修)
浜口 和也(二〇〇三文)	● 山本 真紀

敬 弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

長岡万里子	短期(一九八四)	二〇〇五・一・三三
皆本 浩	文学部(一九七八)	二〇〇五・八・一九
簀和田韶子	博士(一九六七)	二〇〇六・三・二四
日野 信和	修士(一九六九)	二〇〇六・五・二二
桑田 證榮	文学部(一九五八)	二〇〇六・六・三三
小嶋 英春	文学部(一九四八)	二〇〇六・七・二三
堀 浩良	文学部(一九五二)	二〇〇六・二・三六
藤本 公昭	短期(一九五三)	二〇〇六・三・二五
村上 静雄	大専門(一九三八)	二〇〇六・三・二五
林 孝慈	文学部(一九八六)	二〇〇六・三・二八
宇陀 性陽	博士(一九五九)	二〇〇七・一・三三
丹下 永俊	短期(一九五六)	二〇〇七・一・五
横井 顕彰	文学部(一九六六)	二〇〇七・一・五
濱田 正道	文学部(一九五七)	二〇〇七・一・六

窓

同

「日本学術振興会賞を受賞して」 福江 充

(一九八九年大学院修士課程修了)

私は在学中、音楽や古美術のサークル活動に熱中し、勉強は全くしませんでした。が、佐々木令信先生をはじめ、多くの先生方や友人たちに出会い、とても有意義な学生生活を送りました。修士課程を修了後、富山県「立山博物館」に学芸員として就職し、以後十六年間、同館の基本テーマである立山の山岳信仰を、歴史学や民俗学の方法で研究してきました。学芸課の基本事業である資料収集・保管・調査・研究・展示・教育普及を一通りこなしていく中で、特に調査・研究が楽しくなり、本当に沢山の時間をかけました。個人的には、『立山信仰と立山曼荼羅』『近世立山信仰の展開』等の四冊の単著をはじめ、約五十本の論文を執筆しました。一九九九年、『立山信仰と立山曼荼羅』で第九回日本山岳修験学会賞を受賞し、なんとか研究者の仲間入りを果たしました。



た。二〇〇五年、金沢大学から『近世立山信仰の展開』で博士(文学)号を取得し、研究者として自分なりの形ができました。そして今年の春、驚いたことになった。第三回日本学術振興会賞と第二十四回とやま賞を相次いで受賞したのです。特に前賞は、四十五歳未満の全分野の研究者を対象に、日本の学術研究の水準を世界トップレベルに発展させるために創設された国内最高水準の学術賞です。三月二日、日本学士院会館での、秋篠宮殿下同妃殿下ご臨席の授賞式と記念パーティーに出席しました。パーティーの席で秋篠宮殿下が立山信仰に関する専門的な質問をされましたが、突然のことに上手く答えられず冷や汗を流しました。江崎玲於奈先生が、祝辞で受賞者に、今後、絶対にしてはいけない五箇条を提示されました。①世間のしがらみに振り回されない。②氾濫する情報に振り回されない。③自分の恩師を過度に崇敬しない。④研究者は学術的な問題で挑まれたら逃げない。⑤子供のような旺盛な好奇心を絶対に失わない。どうですか、なるほどでしょう。これを参考に一層頑張りたいと思います。

(富山県「立山博物館」・学芸員)

前田 實	大学部(一九五二)	二〇〇七	一・一〇
平塚 孝英	大学部(一九四三)	二〇〇七	一・一一
天野 義英	大予科(一九四五)	二〇〇七	一・一三
三浦 素文	大学部(一九四六)	二〇〇七	一・一九
二川 義順	大専門(一九四八)	二〇〇七	一・二三
野村 和雄	文学部(一九五四)	二〇〇七	一・二三
佛木 道範	大専門(一九四九)	二〇〇七	一・二三
橘 昭馨	大学部(一九四八)	二〇〇七	一・二七
佐々木秀山	大専門(一九四二)	二〇〇七	一・三三
木全 豊	大学部(一九四三)	二〇〇七	二・一八
靈崎 天祥	大学部(一九五五)	二〇〇七	二・一七
篠原 兼了	短期(一九七〇)	二〇〇七	三・二
熊谷 直美	修 士(一九五七)	二〇〇七	三・四
早川 誠暁	文学部(一九五九)	二〇〇七	三・六
笠井 正信	大専門(一九四一)	二〇〇七	三・二
天児喜代次	短期(一九五八)	二〇〇七	三・四
高津 照夫	大学部(一九五一)	二〇〇七	三・八
関戸 巖	大専門(一九四一)	二〇〇七	三・四
岩井 道元	大学部(一九五一)	二〇〇七	三・六
木屋 行範	文学部(一九五六)	二〇〇七	三・七
小口 博司	文学部(一九五三)	二〇〇七	四・二
西河 典夫	大学部(一九五二)	二〇〇七	四・六
大伴 文恵	大学部(一九四六)	二〇〇七	四・四
高浜 純雄	大学部(一九四八)	二〇〇七	四・三
海野 雅亮	大学部(一九四九)	二〇〇七	四・三
斉藤 雅	文学部(一九四四)	二〇〇七	四・二七
諏訪 高昭	大専門(一九三五)	二〇〇七	五・七
林 昭樹	大学部(一九五〇)	二〇〇七	五・一七
亀淵 了映	大学部(一九四二)	二〇〇七	五・二七
大八木 聡	文学部(一九八)	二〇〇七	六・二六

ご逝去

同窓会発展のため、ご尽力たまわりました同窓会久留米支部長 木屋行範氏が三月二十七日に、また同窓会能登前支部長 亀淵了映氏が五月二十七日に還浄されました。ここに深甚の謝意を表し、謹んでお悔やみ申しあげます。

「レッシングの人間愛」

レッシングは、十八世紀ドイツ啓蒙主義期の偉大な劇作家にして宗教的・哲学的文人である。その代表戯曲である『賢者ナータン』が、大谷大学の、今は亡き大庭米治郎先生の名訳によって、岩波書店より日本に初めて紹介刊行されたのは、大正九年のことであった。そして親友の倉田百三に献げられたのであるが、昭和二年に岩波文庫が、ドイツのレクラム文庫に倣って創刊された折り（今年は八十年年に当たる）、この作品は、倉田の『出家とその弟子』に次いで、初年度刊行の七十三冊中の第十二番目の名著として、その高貴な人間性の理想表現のゆえに、文庫に採り入れられたのである。

レッシングにとっては、「人間は行為するために創造された」のであって、言葉を弄ぶために創造されたのではない。聖書の一字一句を無批判的に受け容れるだけの、理性と行為を欠いた独善的信仰を、ユダヤ人の豪商である主人公ナータンの口を借りて批判する。

敬虔な狂信は善行を実践するよりも遙かに容易い。懦弱な人間は、善行を実践する義務から免れたいばかりに、敬虔な狂信に耽ることを喜ぶものだ。

そして「人間の最も高貴な仕事は人間に

なること」、この人間成就の信念のもとに、彼はユダヤ教徒、キリスト教徒、イスラム教徒の三者が、民族や信仰上の違いと、その独善的排他性を超えて、偏見と憎悪の無限連鎖を克服することの大切さを力説する。

三つの宗教のうちどれが「真実の宗教」か。このイスラムの名将サラディンの間いと、それに「三つの指輪の話」を以てなされるナータンの応答の場面は圧巻である。三人の息子による指輪の真贋を巡る争いに對し、自己の指輪が「真実の指輪」と主張するなら、その指輪が「真実」「人からも神からも愛される」という不思議な力を以て証すべし、と。三つの宗教においてもまた然り。形骸化した宗教的真理（言葉）の所有は人間を傲慢にする。真理は神自身のもの。人間の価値は、真理を求める誠実な努力行為にある。

レッシングは親友の高潔なユダヤ人哲学者モーゼス・メンデルスゾーン（有名な同姓の音楽家の祖父）をナータン像に投影しながら、民族的・宗教的偏見からの人間解放と人類愛の思想をこの作品に結晶させたのである。

大谷大学教授・ドイツ文学

友 田 孝 興

表紙絵

「塩の行進」(部分)

全図 165 × 1092 cm 二〇〇七年作

私が初めて渡印した一年間、一七四四年から七五年の頃はどこにでもガンデイの印刷写真が飾られていた。しかし最近その写真が減少した。私は現在も目的があり一年に二度は渡印しているが、この五年間で随分と変化した。パソコン、携帯、衛星テレビの普及で世界が同一均一化の方向となり、インドの伝統技術を持った職人の暮らしが圧迫されている。

一八五七年セポイの乱を契機としてイギリスは翌年東インド会社の統治から、インドをイギリス本国の植民地とした。人間の生活にとって不可欠な衣食住のうち、衣については、鉄道を敷き、それで綿花を集め、イギリスで製品化した布をインドに押し付けた。食においては塩の専売権をとり、高値で暴利を貪った。

ガンデイはイギリス製品の不買のために自給自足を提唱した。「チャルカ」（糸くり）をしているガンデイの写真がいくつもあるのもそのためである。一九三〇年ガンデイは塩税拒否のため三百数十キロを歩いて海に向かい、塩を探る行進を起こした。基本的人権に対する単純で直接的な方法はサティヤグラハ（非暴力的抵抗）の開始の象徴となった。釈尊は暴力を完全に否定された。「人々は暴力を恐れている。我身におきかえて暴力をふるってはならない。ふるわせてはならない。」ガンデイは身をもってサティヤグラハを行なった。今こそ世界は釈尊の思想、ガンデイの実践を見習う時と考える。

畠中光亨（一九七〇年文学部卒）

京都造形芸術大学教授・大谷大学非常勤講師



2007年9月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075) 411-8124 FAX (075) 411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail: kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。譬えば一つの燈をともすやうなものである。冥やみがみな明るくなるが、その明りはついになくなることはない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。